

令和4年2月1日

新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）の感染急拡大を受けて  
～ 自分と社会を守るために最大限の感染対策を ～

金沢大学長 山崎光悦

学生の皆さん

年明け以降、オミクロン株中心の新型コロナウイルスの第6波の到来により、全国各地でまん延防止等重点措置が適用される中、石川県でも病床使用率が30%を超えて医療提供体制に影響が現れ、1月27日から石川県全域でまん延防止等重点措置が適用されました。県内全域が重点措置対象となったのは今回が初めてです。

本学でも、複数の学域・研究科で多くの学生の感染者を確認していますが、そのうちの多数が帰省や余暇活動時の「濃厚接触」等によって引き起こされています。こうした状況を踏まえ、本学では1月19日及び25日付で、活動指針のレベルを一部引き上げました。昨年10月から対面授業を拡大し、正課外活動も緩和してきましたが、今回の措置及び注意は安心安全な学生生活を取り戻すための対応であり確実に遵守してください。

米国疾病対策センター(CDC)は、オミクロン株はデルタ株の約3倍の感染力があると発表し、世界保健機関(WHO)は、オミクロン株の重症化リスクは低い感染者が爆発的に増えると示唆しており、現在の医療の逼迫につながっています。医療が逼迫すると救える命も救えなくなり、感染が拡大すれば医療従事者を含めた、社会や暮らしを支えるエッセンシャルワーカーからも出勤できない人が急増し、社会機能の維持が困難になります。

医療体制や社会機能を維持するには、第6波のピークの抑制と早期の解消が大切です。我々ができる対策は従来の取組の強化であり、専門家も今の感染急拡大の状況の中で、対策をより徹底するよう呼びかけています。本学も第3回目の職域接種の準備を進めていますが、これまでの「マスクの着用」「濃厚接触の回避」「換気の実施」等の対策を最大限に徹底することが必要不可欠です。

発熱や倦怠感等の症状がある場合にはキャンパスへの入構を含めて外出を自粛ながら「速やかに予約して病院を受診」し「陽性の場合は所属部局の学生課にも詳細を連絡」してください。濃厚接触者になった場合は、症状が出なくても「既に感染していて他人にうつすかもしれない」と考え、待機期間が過ぎるまで適切に行動しなければなりません。

対面を原則とするQ4期末試験及び次年度授業に備えて「健康観察とその記録を残す」「濃厚接触の機会を作らない」ことも確実に励行してください。最終学年の学生は卒業・修士・博士論文をはじめ、学生生活の総仕上げの時期を迎えます。3月22日の学位記・修了証書授与式や4月4日の入学宣誓式には、卒業・修了者や入学者の門出を全学を挙げて祝福できるよう「慎重な行動」と「確実な感染防止」を順守してください。